

蟬のいつばい

蟬のいつばい鳴きしきる木立  
緑の葉の濃く茂る下で  
お前のうしろ姿を見るだけで  
私は立ち去るのがよかつたのかもしれない

美しい白いお前の横顔を  
ちらりと見かけて  
好きだなあと思っただけで  
私は立ち去るのがよかつたのかもしれない

氷つた池の面のその厚ぼつたい光  
冬木立の黒い幹の影の向ふ側に  
お前を見つめ

長い人生の中で たとへ はかなくとも  
決してわすれることのないであらう瞬間を  
信じて 私は立ち去るのがよかつたのかもしれない